

卷 頭 言

国際経営研究所所長 照屋 行雄

我々の社会の文化的成熟度を測る尺度として、透明性（トランスペアランス）という概念が重要な指標となってきた。透明性が高いほど文化が高いとするもので、従って、我々の社会は透明性が高まる方向に発展すべきだとする考え方である。

混迷と模索の世紀を費消して新時代を迎えた日本の政治経済は、この透明性という点で十分な発展を成し遂げたと言えるであろうか。いま進められている構造改革は、透明性を飛躍的に高めるための突貫工事とも言える。少なくとも企業経営の世界は、経営意思決定も財務情報開示も、ともにその透明性を高めなければ生き残れない時代に突入したと言わなければならない。

ところで、企業経営における透明性という場合、少なくとも3つの重要な問題を考える必要がある。すなわち、第1はコーポレート・ガバナンス（企業統治）の強化、第2はリスク・マネジメント（経営リスク管理）の徹底、および第3はディスクロージャー（企業内容開示）の充実という問題である。第1のコーポレート・ガバナンスの強化では、第一義的には所有者たる株主の、広くは多くの利害関係者の利益を保護するために、経営者の経営行動を監視・統制するシステムを構築し、その効率的な運営を確保することが求められる。そのために、執行委員・社外取締役制度の導入や内部牽制・内部監査制度の強化が図られなければならない。

また、第2のリスク・マネジメントの徹底では、予見可能な業務リスクはもとより、予見困難な信用リスクや市場リスクなどのいわゆる不確実性リスクの回避もしくは軽減のための組織的・効果的な体制が確立されなければならない。また、市場における競争優位を確保し、ビジネスチャンスによる企業価値の増大を図るため、戦略的リスク・マネジメントに取り組むことが強く求められる。このリスク・マネジメントは、コーポレート・ガバナンスの重要な一環として展開されることによって、企業経営における透明性の確保が期待されるのである。

そして、第3のディスクロージャーの充実では、経営者の経営行動をモニタリングする財務情報開示システムが整備され、企業を取り巻く各種利害関係者間で情報の非対称性が生じないようにすることが求められる。企業のアカウンタビリティ

(説明責任)を遂行するために、会計情報やリスク情報の組織的な管理と適時適切な開示が行われなければならない。企業のディスクロージャーは、一方でコーポレート・ガバナンスの必要条件となると同時に、他方で、外部利害関係者の企業への参加を促進する誘因となっているのである。

社会に矛盾が生じ、時に先行きが不透明に陥ることは我々がすでに経験していることである。大事なことは、その矛盾をどのように解決し、また、リスクの軽減と透明性の確保をいかに達成するかということである。合理的で堅固な思想と仕組みを用意することが求められるが、ここで取りあげたコーポレート・ガバナンス、リスクマネジメントおよびディスクロージャーの3つの問題は、その基本的枠組みを構成する重要な概念となる。今日、グローバル化の進展に伴って、政治経済やビジネスの世界では透明性指標の国際基準（グローバル・スタンダード）が形成されつつあるように思われる。